

# 愛媛大学アジア古代産業考古学研究センター

## 第36回アジア歴史講演会

共催：愛媛大学社会共創学部

### 焼き物と窯の歴史—砥部焼を理解するために—

ぎだち まさあき

講師：木立 雅朗

立命館大学文学部特任教授 1960年生。立命館大学文学部卒、石川県埋蔵文化財センターを経て、立命館大学文学部助教授、同教授。2026年より現職。専門は、窯業考古学・民俗考古学・実験考古学・京都学研究。



京都・五条坂京焼登り窯(旧藤平)

### 砥部焼白水窯とその歴史的・地域的意義

講師：榎林 啓介

愛媛大学アジア古代産業考古学研究センター  
社会共創学部地域資源マネジメント学科准教授



砥部・白水窯登り窯

前半の講師の木立雅朗氏は窯業考古学を専門にし、京都を中心に窯跡や焼き物の研究をされてきました。本講演会ではその立場から、まず日本の窖窯や登り窯、楽窯や色絵窯の出現と社会の変化の関わりについて、大きく概観します。京式登り窯と、伊万里焼・瀬戸焼の登り窯は、実はそれぞれに独自の歴史をもち、さらに京都の上絵窯・楽焼窯は、中国との関係や鑄造業などの産業との関係も抜きにして語れません。中国も含めた広い見地から、古代から近現代までの長い歴史の中で眺めることで、こと愛媛に翻ったときに従来とは違う形で愛媛の砥部焼を見られるようになるかもしれません。後半は榎林啓介氏が砥部で調査をしている砥部白水窯の窯跡を紹介しながら、その歴史的・地域的意義を考えてみます。

日時：2026年7月25日(土) 13:30~16:20 (開場 13:00)

場所：愛媛大学メディアホール (城北キャンパス メディアセンター1階)

申込不要・入場無料